

## 2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 2 月 17 日作成)

|                              |  |                                |                               |
|------------------------------|--|--------------------------------|-------------------------------|
| 小委員会名                        | 認知症高齢者ケア環境小委員会   |                                | 主 査 名：児玉桂子<br>就任年月：2004 年 4 月 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 建築計画委員会  |                                | 委員長名：服部岑生<br>主 査 名：           |
| 設 置 期 間                      | 2004 年 4 月 ~ 2006 年 3 月  |                                |                               |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | 社会的要請が高い認知症ケア環境の構築に向けて、建築とケア分野の専門家が協力をして理論的および実践的研究を活発化して、社会へ発信する。<br>1. 認知症高齢者にふさわしい施設環境整備に向けたセミナー等の開催とハンドブック作成を日本認知症ケア学会等と連携して実施<br>2. 認知症高齢者への多様なケア環境に関する先端的な実践研究について、公開研究会等実施                                |                                |                               |
| 委員構成<br>(委員名(所属))            | 委員公募の有無：有  |                                |                               |
|                              | 児玉桂子(日本社会事業大学・主査) 赤木徹也(工学院大学・幹事) 林悦子(東京都老人総合研究所・幹事) 影山優子(日本社会事業大学・幹事) 狩野徹(岩手県立大学・WG 主査) 足立啓(和歌山大学) 中裕一郎(名古屋女子大学) 石井敏(東北工業大学) 橋弘志(実践女子大学) 浜崎裕子(長崎国際大学) 森一彦(大阪市立大学) 糸山剛(竹中工務店) 古賀誉章(東京大学) 鈴木義弘(大分大学) 隼田尚彦(北海道情報大学) |                                |                               |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           | 施設環境づくり WG：認知症高齢者のための施設環境づくり実践ハンドブックの企画・編集   |                                |                               |
| 2005 年度予算                    | 308,000 円  | ホームページ公開の有無：無し<br>委員会 HP アドレス： |                               |

| 項 目                           | 自己評価  |
|-------------------------------|---|
| 委員会開催数                        | 4 回   |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は除く)         | 1. 認知症高齢者への環境支援指針(PEAP)を用いた施設環境づくり実践ハンドブック Part2 実践から見た取り組み事例(2005.4)<br>2. 同 Part3 ワークショップ：環境への気づきを高め、共有する(2005.10)<br>これらは日本認知症ケア学会と共同作成して、同学会より入手可能  |
| 講習会                           | なし  |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等) | 1. セミナー：認知症高齢者への施設環境づくり(日本認知症ケア学会との共同開催) 参加者数 180 名<br>(資料) 刊行物欄に表記<br>(資料) 抄録集：施設環境づくりのスキルを高める<br>2. 公開研究会：既存特養でのユニットケア導入のための改修モデル 参加者数 20 名<br>(資料) 既存特養でのユニットケア導入のための改修モデルに関する調査研究に基づく資料集<br>3. 公開研究会：地域に根ざした認知症ケアの実践 参加者数 20 名<br>(資料) 福岡県長住地区での NPO と宅老所の連携による認知症ケアの実践<br>(資料) 地域ケアに向けて：釧路 NPO 法人わたぼうしの家の試み<br>4. 実践報告会：施設環境づくりプロジェクト 2005(日本社会事業大学施設環境づくり共同研究プロジェクト主催に協賛) 参加者数 80 名<br>(資料) 東京多摩地区 6 施設との施設環境づくり共同実践研究資料<br>5. 実践報告会：認知症高齢者の住まいの工夫(NPO 法人東京都介護支援専門員研究協議会主催に協賛) 参加者数 150 名<br>(資料) 調査 4 事例の住まいと暮らしの工夫に関する資料集 |

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 大会研究集会                         | なし   |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等             | <p>・小委員会として取り組んだ認知症高齢者への施設環境づくりセミナーは、日本認知症ケア学会誌や介護専門誌に掲載され、より良いケア環境づくりを広くアピールした。また、このセミナーを基に認知症ケア専門士のための e-learning プログラムが作成された。</p> <p>・各委員はケア環境の専門家として、各自治体等の研修会・施設計画・審議会等で活発な発言をしている。</p>   |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得られた成果との関係) | <p>認知症高齢者にふさわしいケア環境の構築に向けて、実践的研究をリードして、本小委員会は建築とケア両分野の架け橋として以下のような成果を上げた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症高齢者にふさわしい施設環境整備に関する実践研究<br/>高齢者施設ケアが身体的ケアモデルから認知症ケアモデルへと転換するのに対して、既存施設における大規模な改修および現場のケアスタッフが取り入れることの出来る小規模な施設環境づくりに関するセミナー実施やハンドブック作成等を通じて、今日の高い社会的要請に応えることが出来た。</li> <li>2. 認知症を取りまく多様なケア環境に関する先進的な実践研究<br/>地域に展開される小規模多機能施設やグループホームおよび在宅環境での住まいの工夫に関して、最先端の実践的研究を取り上げ、建築とケア双方の専門家の研究交流を図ることが出来た。</li> <li>3. 建築とケア両分野の専門家の協力体制の構築<br/>認知症ケア学会との共同開催セミナーには、2004年および2005年に延べ360名、NOP 法人東京都介護支援専門員研究協議会との協賛の実践報告会には150名、日本社会事業大学との協賛の実践報告会には80名の参加があり、建築とケア両分野が連携して認知症ケア環境について考える道筋を付けることが出来た。</li> </ol> |
| 委員会活動の問題点・課題                   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本年度は九州と北海道における地域密着の実践研究を取り上げることが出来た。今後、小委員会が全国を網羅している特長をさらに生かし、各地で活躍する委員の地域に密着した研究・実践活動を引き続き取り上げることが望まれる。</li> <li>2. この2年間、外部のケア専門家集団との活発な連携が図れたので、今後、建築学会大会などで研究集会を持ち、建築分野への働きかけが望まれる。</li> <li>3. この2年間は実践的研究に活発に取り組んだが、未だ確立していない認知症ケア環境理論の構築に向け、小委員会がさらに役割を果たすことが望まれる。</li> </ol>  |